

<研修名>	小学校・中学校臨時的任用教諭研修【新規者】(第3日)
<研修日>	令和5年8月1日(火)
<人数>	小学校61名・中学校61名
<ねらい・目的>	<p>自己の取組計画について、成果と課題を整理し改善を図ることで、PDCAを繰り返す。</p> <p>教師としてのコミュニケーションについて、工夫・改善の視点を得る。</p>
<講師・指導者>	広島経済大学教養教育部 胤森 裕暢 教授
<受講者の様子・感想>	<p>明るく、元気で、素直に。教師として一番大切な要素であると感じました。積極的なコミュニケーションをとっていくためにも、教師から進んで話しかけていくことが大切なので、明元素を常に意識し、実践することで生徒からも周りからも保護者の方からも信頼を得ることができると感じました。</p>
	

<研修名>

初任者研修(第7日)

<研修日>

令和5年7月31日(月)、8月1日(火)

<人数>

191名

<ねらい・目的>

グループのメンバーと対話し、他者と協働して課題解決をすることを通して、夏休みあけからの取組に向けた見通しをもつ。

<受講者の様子・感想>グループの誰もが「自分だったら…」という視点で考え、アドバイスなどしあい、自分だけでは気が付かなかった考え方や価値観を知ることができた。自分や学級を振り返る機会があり、自分自身の成果や課題が見えてきたので、今後も引き続きPDCAサイクルをしっかりと回していきたい。



<研修名>	特別支援学級等新規担当教員研修(ABC日程/第4日)
<研修日>	A日程:令和5年8月2日(水) B日程:令和5年8月2日(水) C日程:令和5年8月3日(木)
<人数>	A日程:34名、B日程:43名、C日程:50名
<ねらい・目的>	自身の授業実践を振り返るとともに、実践交流を通して効果的な指導や支援のあり方について理解を深め、明日からの実践につなげる。
<研修内容・講義題>	個に応じた指導の実践(教育センター職員)/学習指導等の振り返りI(市立学校職員)
<講師・指導者>	教育センター職員
<A日程>	安東小学校 教諭 藤野 直美、亀山南小学校 教諭 井手本 修司、古市小学校 教諭 大倉 隆弘 国泰寺中学校 教諭 水津 留美子、大塚中学校 教諭 大野 眞佐代
<B日程>	亀山小学校 教諭 國光宏美、矢野西小学校 教諭 池田幸枝、戸坂城山小学校 教諭 長藤祐揮、幟町中学校 教諭 木村珠己、井口中学校 教諭 小早川典枝
<C日程>	川内小学校 教諭 梶原美園、原南小学校 教諭 蔭久祥、青崎小学校 教諭 城幸美、伴南小学校 教諭 石原寿奈、伴小学校 教諭 物部美穂子、城南中学校 教諭 加藤美穂、古田中学校 教諭 鈴木孝信
<受講者の様子・感想>	実践に共感してもらいながら、教材や指導方法の多くアイデアを教えてもらうことができた。また、「この子は、なぜこの行動に繋がったのか?」「この子自身は何を伝えたかったのだろうか?」と子どもの目線から考えることの大切さを改めて感じる事ができた。



<研修名>

新任教育相談・支援主任研修

<研修日>

令和5年8月3日(木)

<人数>

87名

<ねらい・目的>

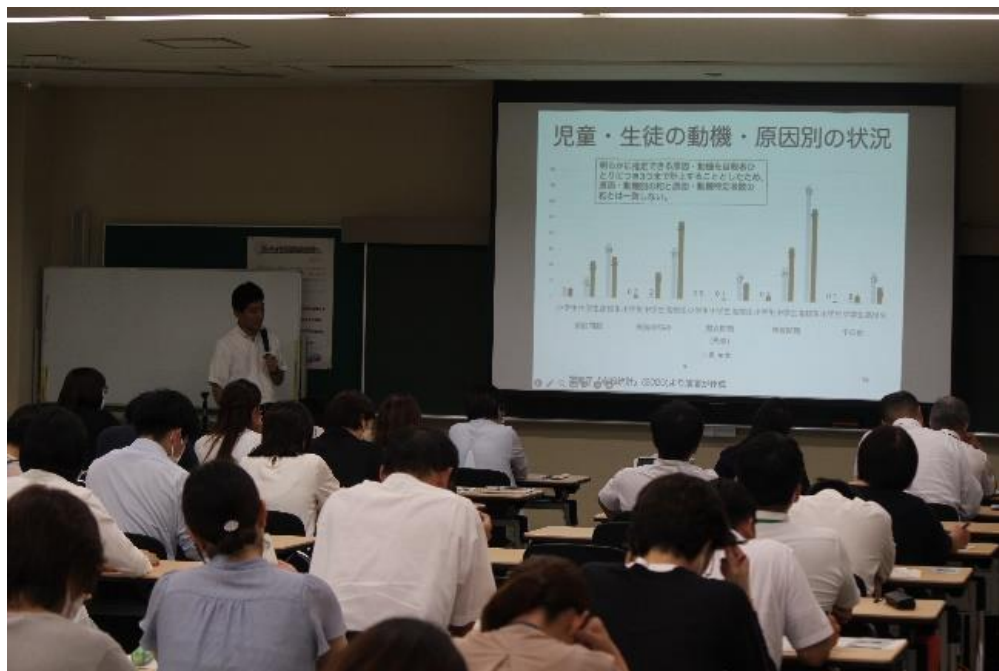
【新任】教育相談及びいじめ・不登校等の未然防止に係る必要な知識を得るとともに、教育相談・支援主任の役割を理解し、組織的な教育相談及びいじめ・不登校等の未然防止の取組の推進に向けた見通しをもつ。

<講師・指導者>

広島修道大学 教授 内野悌司

<受講者の様子・感想>

グループワークの中で、児童の困り感は何かを考えていくことを通して、児童が安心して話ができるような環境の中で解決していくことが重要だと感じた。そのために、教師は一人で抱え込まず、「チーム」で対応していく必要があると思った。担任をはじめ、学年主任、養護教諭等と、常に情報を共有し、児童との信頼関係を築いていくことを大切にしたい。



<研修名>	(新任・経験2年次)園長・校長研修【高・中等後】、(新任・経験)特別支援教育コーディネーター研修【高・中等後】
<研修日>	8月4日(金)
<人数>	10名
<ねらい・目的>	特別な配慮や支援を必要とする生徒の特性や支援方法等について理解を深め、組織的な特別支援教育の充実にに向けた見通しをもつ。
<講師・指導者>	神奈川県立綾瀬高等学校 校長 竹本 弥生
<受講者の様子・感想>	<p>「生徒の学習の躓き等の把握や指導上の配慮の視点を身に付けるなど、発達障害等を踏まえた生徒に寄り添う実践的指導力を高めるため、教育相談部によるケース会議等を一層充実させたい。」(新任園長・校長研修受講者)</p> <p>「障害のある生徒にとっては必要な支援を、障害のない生徒にとってはあったら便利な支援を、という視点で私たちが考えると、何も特別なことを限られた人にするのではないと感じた。当たり前のことをやっていきたい。」(特別支援教育コーディネーター研修)</p>



<研修名>	中堅教諭等資質向上研修、中堅養護教諭資質向上研修(第4日)
<研修日>	令和5年 8月4日(金)
<人数>	小90名 中49名 高9名 特5英 養護11名 / 計164名
<ねらい・目的>	学校経営計画に基づく自己のミッションにおける実践を振り返ることを通して、中堅教諭としての自身の役割を見直すとともに、今後の実践に見通しをもつ。
<講師・指導者>	早稲田小学校 教頭 梶原 大輔 庚午中学校 教頭 河田 ゆみ
<受講者の様子・感想>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験年数では、期待されること、任される責任があり、それが今後続く方への手本になれるよう行動しなければならないと、身の引き締まる思いをもった。 講義の中で、学校にいる先生方にはどんな人がいてどんな仕事をしているのかを考える場面があった。学校運営の中核をなす中堅教諭として、すべての先生方に目を向けることが大切さであると感じた。計画を立てる際には、先生方全員がそれぞれ何をすれば良いかを明確にし、役割を振ることで、全員で動けるように意識していくべきだと分かった。



<研修名> ICT を活用した授業づくり研修第2日

<研修日> 8月4日(金)・7日(月)


<人数> 57名

<ねらい・目的> 学習のねらいを達成させるための効果的な ICT の活用方法について理解し、実践に向けた見通しをもつ。

<講師・指導者> 8月4日 藤の木小学校教諭 水原 誠、東原中学校教諭 谷川 雄亮
8月7日 山田小学校教諭 太田 翔平、城山中学校教諭 町屋 考得

<受講者の様子・感想>
授業での一人一台端末活用において、児童は、課題解決に向け、個人で取り組むだけでなく、他者の情報を参照しながら学ぶことができる。分からないときでも、友達の考えを参考にしながら、なんとか課題を解決しようと挑戦する力を身に付けることが大切である。



<研修名>	特別支援学級授業づくり研修(第1日)
<研修日>	令和5年8月8日(月)
<人数>	68名
<ねらい・目的>	学習指導要領の理解を深めると共に、障害特性を理解し、子どもの実態から始まる授業づくりを行うことができる。
<講義題・研修内容>	授業づくりの基本と授業計画の立案／子どもの「分かる・できる」を支える授業づくり
<講師・指導者>	島根県安来市荒島小学校 教諭 井上賞子 教育センター職員
<受講者の様子・感想>	勉強が嫌いなのではなく、挑戦しようにもできない子がたくさんいるのだと感じた。そのような子に勉強方法、学びの機会を保障することが重要だということが分かった。私は、今日のこの時間の話を聞き、特別支援学級の教員であることに誇りをもつことができた。
	

<研修名>	主幹教諭等研修
<研修日>	8月8日(火)、8月10日(木)
<人数>	18名
<ねらい・目的>	主幹教諭及び学校運営の中核を担う者の役割を理解するとともに、実践力を高める。
<講師・指導者>	名古屋商科大学ビジネススクール 教授 竹内 伸一 広島大学 名誉教授 林 孝
<受講者の様子・感想> ケースメソッドを通して、学校組織の中での役割や位置について、再度熟考することができた。自分の意見が言える環境での、論点を明らかにしたディスカッションがとても新鮮で、いつもと違う自分が引き出された気がした。 人をよりよい人に育てるのが教育活動。当たり前だが、忘れがちである。学校だけでなく、家庭、地域でよりよい生徒を育てる手立てを提案したい。	



<研修名>	新任生徒指導主事研修、生徒指導主事研修、子どもの理解研修Ⅱ
<研修日>	8月9日(水)
<人数>	279名
<ねらい・目的>	不登校やいじめなどの教育課題について理解し、その予防・解決に取り組むことができる。
<講師・指導者>	開善塾教育相談研究所 所長 藤崎育子
<受講者の様子・感想>	<p>多様な生き方・考え方を認めていくという流れの中で「不登校は 1 つの選択肢」という考え方もあります。しかし、ほとんどの不登校はそうではないように感じました。社会生活を送る上で、毎日学校に通うという行為自体に意味があると思うので、不登校生徒が何とか学校復帰できるように、様々な手段で働きかけていく必要性を強く感じました。</p> <p>※ 本研修の講師である藤崎先生から、書籍『生徒指導提要 改訂の解説とポイント』をご提供いただきました。皆様にもご覧いただけるようにしようと思っておりますので、ぜひご活用ください。</p>



<研修名>	小学校英語専科指導教員研修
<研修日>	令和5年8月10日(木)
<人数>	本務者:小学校31名、中学校2名 非常勤講師:78名 計111名
<ねらい・目的>	学習指導要領で求められる資質能力を育む授業づくりと評価について理解するとともに、その実現に向けた見通しをもつ。
<講師・指導者>	文部科学省初等中等教育局 視学官 直山 木綿子
<受講者の様子・感想>	言語活動における目的・場面・状況を明確にし、児童がそれらを常に意識しながらコミュニケーションを行うようにさせることが大切だと分かった。



<研修名>

初任者研修(第8日)

<研修日>

令和5年8月21日(月)、8月22日(火)、8月23日(水)

<人数>

87名

<ねらい・目的>

小学校理科授業における事故や安全指導の方法について理解し、安全に観察・実験を行うことへの見通しをもつことができる。

<受講者の様子・感想>理科授業における観察・実験では、安全を確保することが最重要であると学んだ。子どもと一緒に学びをつくるということはこれまでも意識したことがあったが、子どもと一緒に安全をつくるという視点は意識しなかったことがなかったので、今後は意識していきたい。



<研修名> 小学校臨時的任用教諭研修【新規者】(第4日)

<研修日> 8月22日(火)

<人数> 90名

<ねらい・目的> 生徒指導・学級づくり・授業づくりの基本的事項について理解し、教育活動に必要な実践的指導力を高める。

<講師・指導者> 教職員課職員／生徒指導課職員

<受講者の様子・感想>
不祥事防止、いじめ防止と解決のいずれも、問題を一人で抱え込まず、学校全体で組織的に対応することが大切だと改めて理解することができました。いじめ見逃しゼロのためには、いじめは常に起こりうるという前提をもち、プラスに見える状況でも、子供やクラスの実態からいろいろな視点で観察し判断することが必要だと思いました。



<研修名>

教育活動推進リーダー育成研修第4日

<研修日>

8月22日(火)

<人数>

15名

<ねらい・目的>「令和の日本型学校教育」について理解し、ミドルリーダーとして自園・校の「令和の日本型学校教育」の構築に向けて組織的に教育活動を推進するための実践力を高める。

<講師・指導者>

教育センター職員

<受講者の様子・感想>

自分の思いを言葉にして他の人に聞いてもらうことで、整理したりまとめたりしていけそうだった。目標・内容・方法を関係付けて考えることで、筋道が一本化していくのだと実感した。どのアプローチ方法になっても、広島市の目指す教育の視点にある「一人一人の子ども」を根本に据えることは忘れないでいたい。



<研修名> 教職経験6年次教員研修(第3日)

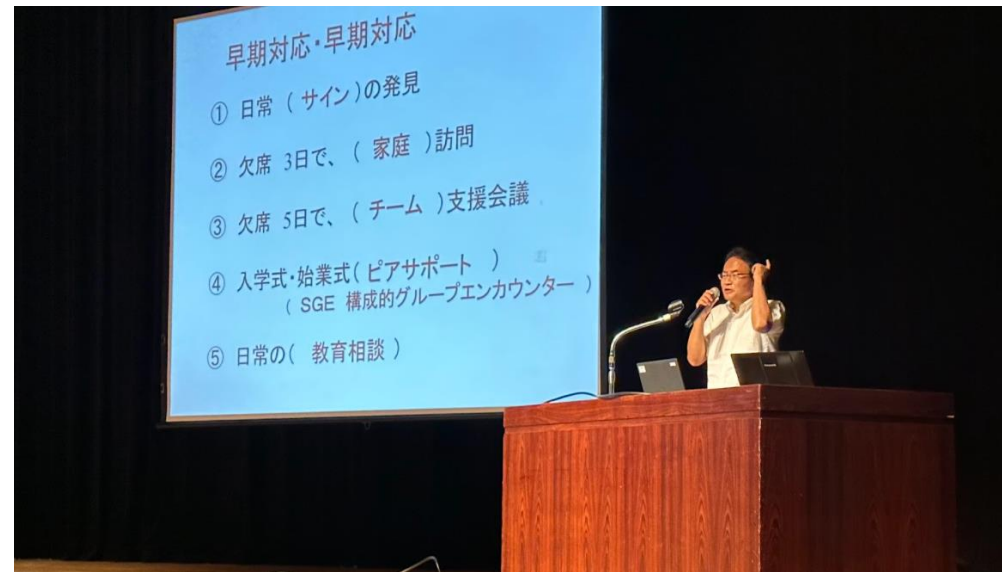
<研修日> 令和5年8月22日(火)

<人数> 242名

<ねらい・目的> 「チーム学校」の一員としての自己の役割を自覚し、「チーム学校」づくりのための実践に必要な力量を高める。

<講師・指導者> 神戸親和大学 金山 健一 教授

<受講者の様子・感想>
予防的生徒指導が大変重要であると改めて分かった。気になる児童に対してだけでなく、学級経営を見直し、学級全体の子どもと子どもがつながり、お互いを理解することが、いじめや不登校の予防になることを学んだ。



<研修名>	中堅教諭等資質向上研修 中堅養護教諭資質向上研修
<研修日>	令和5年8月22日(火)
<人数>	168名
<ねらい・目的>	教育法規等を理解することを通して、園児・児童・生徒への適切な教育活動・対応を行う力を身に付けるとともに、「チーム学校」の一員として、法理解に基づいた助言をすることができる。
<講師>	長野総合法律事務所 弁護士 峯本耕治
<受講者の様子・感想>	児童の不適切な行動や保護者の過度な要求を目の当たりにすると動揺してしまったり怒りの感情がわいてしまったりしてしまう。その背景にあるものを考えること、評価することが大変重要だと思った。また、行動そのものではなく、過去からの蓄積や児童、保護者の不安などを考えて対応することが大切だと思った。



<研修名>	人権教育研修
<研修日>	令和5年8月23日(水)
<人数>	33名
<ねらい・目的>	多様化する人権問題を理解し、人権感覚を高める指導の工夫について視点を獲得。
<講師・指導者>	鳴門教育大学大学院学校教育研究科 准教授 眞野 豊
<受講者の様子・感想>	今回の研修を通して、人権感覚について学ぶことができた。LGBTQに限らずいろいろな考え、立場の児童が安心して過ごせる、学べる環境づくりが必要であると感じた。



<研修名>	学校評価研修
<研修日>	令和5年8月23日(水)
<人数>	20名
<ねらい・目的>	実践発表、講義や演習を通して、自校の学校評価の改善に向けて、実践計画を立案する。
<講師・指導者>	戸坂城山小学校 教諭 福武 祐子 三入中学校 教諭 越智 由夫
<受講者の様子・感想>	2つの実践発表から、学校評価に全教職員でベクトルを揃えて、取り組んでいくことが大事であることを学んだ。



<研修名>	新任生徒指導主事研修、新任特別支援教育コーディネーター研修、子どもの理解研修Ⅲ
<研修日>	令和5年8月23日(水)
<人数>	249名
<ねらい・目的>	特別な配慮や支援を必要とする幼児、児童及び生徒の特性等を理解し、適切な支援方法について考えることを通して、いじめの予防・解決に必要な視点を獲得する。
<講師・指導者>	桃山学院教育大学人間教育学部 教授 松久 眞実
<受講者の様子・感想>	これまで発達障害のある子どもの目線で考えることはほとんどなかった。子どもの行動の背景を知り、その子の立場に立つことが、適切な支援につながると感じた。



<研修名>	中学校臨時的任用教諭研修【新規者】(第4日)
<研修日>	8月24日(火)
<人数>	83名
<ねらい・目的>	生徒指導・学級づくり・授業づくりの基本的事項について理解し、教育活動に必要な実践的指導力を高める。
<講師・指導者>	教職員課職員／生徒指導課職員
<受講者の様子・感想> たった一瞬の気の迷いで、自分だけでなく他の人の人生も巻き込んで台無しにしてしまう。普段から悪いことをしない、言わないことを意識して過ごす。また、自分だけでなく職場が一体となって不祥事を許さない雰囲気を持続していくことが大事だと感じた。	



<研修名>

幼稚園教育実技研修

<研修日>

8月25日(金)

<人数>

46名

<ねらい・目的>

音楽・リズム遊びの指導のポイントについて体験的に学び、指導に必要な視点や方法を理解する。

<講師・指導者>

日本幼児体育学会 専門指導員 阿部 玲子

<受講者の様子・感想>

手遊びは子どもの気を引くためのものというイメージでしたが、子どもたちと共に体全体を使った表現遊びへと発展させることができるという楽しさを感じることができました。



<研修名>

校内授業研究の充実に係る研修, 学力向上特別セミナー

<研修日>

令和5年8月28日(月)29日(火)

<人数>

26名

<ねらい・目的>

自校の児童生徒の学力や学習状況について分析する方法を身に付けるとともに、授業改善に向けての見通しをもつ。

<講師・指導者>

広島大学大学院 人間社会科学研究科 准教授 木下 博義

<受講者の様子・感想>

全国学力・学習状況調査の各教科の結果と質問紙の相関を見ることの意義を実感することができた。このような関係性を意識することで、新たな授業改善の視点が得られると気付いた。



<研修名>	幼稚園主任研修
<研修日>	8月29日(火)
<人数>	19名
<ねらい・目的>	幼稚園主任として幼児教育の意義や今日的課題を理解し、自園の教育活動充実への見通しをもつ。
<講師・指導者>	名古屋学芸大学ヒューマンケア学部 教授 津金 美智子
<受講者の様子>	<p>同じ活動であっても、一人一人が体験し感じていることや気付いていることは違う。「体験を理解する」ことの大切さを学んだ。教師が事前に予想して環境構成をしてきたが、子どもの表情や様子を見取り、子どもの声を受けて一緒に準備したり、何が必要かを考えたりして、深い学びにつなげていきたい。</p>

